

平成29年度 学校関係者評価委員会 外部委員の評価のまとめ

自己点検評価項目		平均	評価(意見)	評価結果とその背景	今後の取り組み
I. 教育目的・目標 教育理念					
教育理念・目的・目標の設定と達成	・教育上の特徴を示しているか。	3.0	・協同学習の導入、推進に向けて、理念・目的・目標の達成に結びつけた設定になっている。 工夫されていることが伺える。各教員の教育活動にも繋がっている。	5つの評価項目のうち4項目については「3.0」と高い評価を得た。しかし、「教育理念・目的・目標の周知」に関する項目が「2.8」であった。この項目は前年度も同じ評価であったため、評価結果を受け周知に関する対策を講じた。新年度のホームルームで教育理念に関する内容を組み入れたり、進学ガイダンスに経験年数の少ない教員が参加することで意識化をはかるようにした。他にも、オープンキャンパス等で学生が高校生に説明する中で意識化できるようにした。今後も、周知の方法を検討していく必要がある。 3年間の積み上げ教育を計画的に行っているが、その際に、教育理念・目的・目標も念頭に置いている。また、学修ポートフォリオを作成し、学修の意味や目的などを学生が身近に感じ可視化できるよう取り組んだ。	教育理念・目的・目標の周知については引き続き対策を考える必要がある。 学修ポートフォリオの形式を決め、活用するように展開し始めたところである。しかし、まだ学生の意識が薄く、きちんと活用できていない学生が多い。今後は効果的な活用方法を検討していく必要がある。
	・学生が卒業時点でどのような資質を有すべきかを明示しているか。	3.0	・学院の教育理念を学生でも理解しやすいような概念図を作成されている。3年間、学習していく中でどのようにして意識させ続けていくかが課題でもあると思う。		
	・教育理念・目的・目標の周知が図られているか。	2.8	・教育理念、目的、目標、期待する卒業生像等明文化され、さらに概念図に現わされているので理解しやすい。周知になると、なかなか難しい言葉だけに学生がどの程度認識しているかは疑問であるが、折に触れ話ができる機会があれば良い。		
	・学生の学修指針に活かされているか。	3.0	・教育理念・目的・目標・期待する卒業生像等について、明確に示されている。 ・自己点検評価も高くなっており、教職員の方々の取り組み・意識が高くなっていると感じる。		
	・教師の教育活動指針に活かされているか。	3.0			
II. 学生の受け入れ					
学生募集の広報活動	・入学希望者開拓の広報活動等が適切かつ効果的に行われているか。	3.0	・大学、専門学校が増えた中で、県立高校訪問などの取り組みの努力が伺える。少子化の中で受験生、入学生の確保は本当に難しい。 ・入試科目や日程など、高校教師の意見ももっともであるが、なかなか悩ましい問題でもあった。来年度の入試に向けて変更されるなど、早期に解決に向けて努力されていることが伝わった。 ・県東部の方まで広報活動に出掛けるなど努力されている。選抜の公平性を図るために試験日等の考慮もされている。 ・28年度も、新たに出雲部の高校へも訪問され、高校の状況を把握するとともに、石見高等看護学院の考えや特徴などを理解していただく良い機会となっていると思う。 ・オープンキャンパス・学園祭・出前講座等学院を知ってもらう活動がなされている。また、ひとまるビジョンとの協働での番組作成など学生も地域を意識し、そして地域の人にも学院を知っていただく取り組みがなされている。学院のPRの場が増えることはよいことである。 ・石見高等看護学院が小さい頃から身近で、地域にとって宝と思えるような取り組みを続けていくとよいのではないか。	少子化、大学志向の社会状況や県内の看護師養成機関の開学のおおりは明らかに当学院の受験生減少となって表れている。 受験生減少に対する高校訪問の範囲拡大やオープンキャンパスの内容充実、一般入学試験制度を見直し、魅力ある入試制度への改革などその取り組みについて高い評価を得た。 また、受験生である高校生だけを対象にするのではなく、看護に対する関心を早期から高めていくために取り組んでいる小学校への出前授業や、学内で実際に授業・演習を体験する親子スクールの初開催などは、地域における児童や保護者への情報発信と共に、地域にある高等教育機関の石見高看として、その存在を知らしめるPR活動となっていると評価を受けた。さらに、ひとまるビジョンとの協働番組作成企画についても、地域貢献と併せ、幅広い世代の視聴者に、学生の出演を含めて当学院を知ってもらえるメリットがあり、それに加えて、学生が地域を意識するという相乗効果を得ているのではないかと評価を受けた。	第2次中長期計画の中に、推進課題4「島根県立石見高等看護学院の管理運営」の2)入学定員の確保の中の①看護師国家試験高合格率の維持、②広報活動の展開、③学生募集活動の促進、④更なる魅力アップの検討と推進課題4の6)の地域への貢献①卒業生の県内就業率の向上、②地域貢献策の検討が挙げられている。 これらの内容については、委員からも意見をj得ている。よって引き続き取り組んでいく。 なお、入学試験については、平成30年度の一般入試から、二段階選抜の中止やセンター入試後の日程等魅力ある入試制度の改革を実践に移すため、その結果を入試委員会で分析・評価していく。
入学者選抜の方針・方法	・選抜の方針・方法は教育理念・目的・目標にてらして妥当であるか。 ・選抜の公平性が図られているか。	3.0 2.8	・入試選抜の方針が立てられ、入試委員会に於いて、規定を設け選抜され、公平性を確保されている。 ・かなり積極的に取り組みをされていると感じる。進路指導の先生の意見を評価、分析し次に活かされていると感じるが、試験の日程については、ご指摘があり、改善の余地があるように感じる。	入学者選抜の方針・方法については、入試委員会を設けその規定に基づき選抜し、公平性を担保していると評価を受けた。 高校訪問などの結果を分析し取り組みに活かしている点について評価を得ているが、対応いただいた先生方の指摘に対し、改善に向けた取り組みが必要ではないかと意見をj得た。	
III. 学生生活の支援					

学修継続への支援	・奨学金等の経済的支援について周知し、活かされているか。	3.0	・経済的支援についてはいさぐさではない程の支援体制だと思いますし、これが学院の売りのいち要素だと思います。 ・各種制度についての情報提供は、大事なことであり、いろいろな機会をとらえて適切になされていると思う。	スクールカウンセラーの活用に関して評価が低かった。カウンセリングの利用が少ないという結果を受け、学生に利用の必要性がないのだと捉えることもでき、良いことであると評価を得た一方で、何らかの形で利用しやすい工夫が必要ではないかという意見もあった。講話やGHQ調査の効果的な活用に対してなど、現在様々な形でスクールカウンセラーの介入があることは、学生支援につながっているという評価を得た。	スクールカウンセラーをより効果的に活用するために、現状を継続しながら、さらなる活用の仕方について検討を行う。また、相談しやすい雰囲気作りなど、チューター制度の効果的な活用について検討を続ける一方で、教員・事務・スクールカウンセラー・学校医など、関わる職員が連携して学生支援のシステム化を図ることも必要である。
	・カウンセラーの配置等健康相談について周知し、活かされているか。	2.6	・入学初期の頃、必要時期にスクールカウンセラーの介入があり、学生支援に繋がっている。進路情報についても現状把握しながら取り組まれている。学生ラウンジに就職情報が設置され、いつでも誰でも見ることができるよう配慮されている。 ・カウンセリングについては、配置は必要であるが、利用者がいないことは良いことである。また、最近の学生は義務教育の中でスクールカウンセラーの存在、役割を周知していると考えられるため、必要であれば利用すると思う。 (教員の立場でせっかく配置しているから利用しなければ・・・の認識になっていました)	学生支援においてチューター制度は良い制度であるとの評価を得た。しかし、人間関係の上に成り立つものであり、関係性がうまく築けない場合も可能性としてはあり、そういった場合の対策もしておく必要性を指摘された。また、学生達の相談はメンタルヘルスに関するものばかりではないため、いろいろな側面で相談しやすいシステム作り・雰囲気作りが大切という意見もあった。 これら以外は学生生活の支援は適切にされているという評価を受けた。	
社会的活動への支援	・社会活動等に学生が積極的に参加できるように周知し支援しているか。	3.0	・GHQ調査を実施し、その結果を受けて教員との話し合いや学生に講話や面接を行っている。 ・スクールカウンセラーの配置が折角あるのに利用の実績が少ないという事が残念でした。事情もあるようですが、何か使いやすい工夫はないかと思えます。 ・チューター制度についても、3年間継続して、生徒の支援に当たられるとのことであり、生徒を理解しやすい信頼関係もできると思う。 ただ、いい関係づくりができない場合の対応も考えておくことも必要である。 メンタルヘルスも含め、気軽に相談できる、相談しようという雰囲気づくりも大切である。	経済的支援、学生の社会活動等への参加のための支援、進路選択の支援については、学院の取り組みが評価され、高い評価を得た。	経済的支援、社会的活動への支援、進路選択の支援については、これまで通り適宜情報提供等を行うなどし、支援に努めていく。
卒業後の進路選択への支援	・進路情報について周知し、適切な指導が行われているか。	3.0	・ボランティア活動の表彰制度は学生の意識向上や励みにもなる制度である。 ・県内就職率は8割であり、県内の看護師確保にも寄与している。		
IV. 教育課程					
教育課程の編成	・教育目的・目標や社会のニーズ、学問的動向に沿った編成をしているか。	3.0	・授業と実習の組み立て、学生の学習効果を考えたカリキュラム編成が行われている。それらは、定期的な評価が行われ改善されている。 ・今回、授業参観させていただいた「小児」では、小児の成長・発達を学び、早期に保育所実習に出向くという流れであり、その学びの効果をぜひ聞きたい。	月に一度の教育課程編成委員会の開催や各種アンケートの結果をもとに、学生に適した教育内容の見直しが図られていると高い評価を得た。それに加えて、地域医療の現状を踏まえた教育内容を組み込むことの要望があった。	地域医療構想が示され地域包括ケアがすすめられる中、学院ではカリキュラム改正も視野に入れ、平成29年度より看護教員の地域看護研修をスタートした。今後、現行のカリキュラムの問題点を整理し対応してだけでなく、研修からの学びを加味し、地域医療の特性を踏まえたカリキュラムを構築していくことが必要である。
教育課程の見直し	・定期的に評価し、改善しているか。	3.0	・自己点検・自己評価の他、学生による評価やアンケートの結果を踏まえ改善されている。 ・アンケートを中心に評価され詳細に分析されそこから課題を見出し改善に向け検討もされており、努力を重ねられていると思います。 ・3年間の実践能力育成については計画的に、内容について検討しながら実施されている。 ・最近の医療介護に関する内容・地域の医療の現状等についても、ぜひ組み込んでほしい。		
V. 教育活動・教育指導					
学習支援(ガイダンス)	・学生が学修しやすいような内容・方法で、ガイダンスを行っているか。	3.0	・「協同の精神」「協同学習」の導入、実施が効果的になされている。	教育活動・教育指導については、18項目中の15項目が「3：あてはまる」の評価を受け、昨年同様高い評価を得た。	昨年度の「今後の取り組み」として、アクティブラーニングの方法のさらなる定着を目指し、今年度はそのための取り組みを行う。

学 科	授業の計画的遂行・調整	・学生が学修しやすいように授業の進捗を計画調整しているか。	3.0	・教員の業務の見直しや改善を実施し、授業準備時間や実習指導準備時間、自己研鑽の時間の確保が必要と思われる。	画を受け、昨年度は高い評価を得た。	評価を得た。今後も教員・学生ともに協力し、「石見高看らしい協同学習」の在り方を構築していく。	
	シラバスの作成状況	・学習への動機づけになるようなシラバスを作成しているか。	3.0		協同学習の導入を経て、今年度はさらに定着を目指して各教員が努力している点が評価された。特に、今年度は評価委員に授業の一部を参観してもらったこともあり、リアルな評価を受けたと受け止めている。	授業や実習指導の準備時間については、昨年度と引き続いて若干低めの評価だったが、今後も時間の有効利用や業務のスリム化については検討を続けていく。	
	授業科目の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当科目と時間数を配分しているか。	3.0	・教員の研修参加の多さ、またそれぞれ担当されている。委員会等の活動・・・それぞれが意欲的になされている。その結果と言っては失礼かもしれないが、「授業進捗の計画調整・授業準備時間の確保・実習指導準備時間の確保」が難しく、先生方の評価が低くなっている。これは教員ならではの悩みかもしれない。しかし、教員皆さんの熱心な取り組みの表れだと言える。	しかしながら、教員の授業準備や実習指導準備にかかる時間の確保、ならびに自己研鑽のできる体制作りに関する評価については「2.8」となっており、昨年と同じ傾向になっている。新しい教育技法の導入や向上について、教員たちが意欲的であればあるほど、そのための準備に要する時間が必要となっており、その点で評価が低くなっている。		
	教育・学習指導方法の工夫	・教員が授業準備の時間をとれる体制を整えているか。	2.8		また、「学力だけでなく、人間性や社会性を高めるような教育も重要である。」という意見を得た。この点は、看護基礎教育において重要な教育テーマであるといえる。		
		・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	2.8				
授業評価	・教員は授業評価を行い、指導方法を改善しているか。	3.0	・学生の学校評価結果でも学習支援については3項目とも90%以上が肯定的評価であった。また、学生の評価やアンケート結果を改善に繋げている。				
実 習	学習支援(オリエンテーション)	・学生が実習しやすいような内容・方法でオリエンテーションを行っているか。	3.0				
	臨地実習の計画的遂行・調整	・学生が実習しやすいように実習を計画・調整しているか。	3.0	・協同学習の導入、充実に向け工夫がされている。今年度は実際に授業を見学させて頂き、リアリティーがあって新鮮だった。先生や学生同士で誰もが発言しやすい環境で授業が進行していた。			
	実習指導要項の作成	・実習への動機づけになるような指導要項を作成しているか。	3.0				
	臨地実習の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当場所、時間数を配分しているか。	3.0	・今年度、評価委員会で学院見学、授業見学を行い、学校や学生の様子を直接見ることができより具体的に理解することができ良かった。			
実 習	実習指導方法の工夫	・教員が実習指導準備の時間が取れる体制を整えているか。	2.8				
		・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	3.0	・様々な行事が企画され、精力的に活動されており、それに対し先生方の指導や支援がなされている。			
	実習評価	・教員は実習評価を行い、指導方法を改善しているか。	3.0				
特別活動	学校行事	・学生や教員が参加しやすい日程、時期を計画し指導しているか。	3.0	・近年、国家試験合格率100%であり、教育活動・指導による結果であると思う。			
	自治会活動、H・R活動	・学生や教員が参加しやすい日程を計画し指導しているか。	3.0	・学力だけでなく、人間性や社会性を高めるような教育も重要である。			
成績評価	成績評価の方針と基準	・学生に成績評価の方針と基準を公表し、周知しているか。	3.0				
単位認定	単位認定の方針と基準	・学生に単位認定の方針と基準を公表し、周知しているか。	3.0				

VI. 学校環境

施設設備	校舎の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0	・長期にわたる外観整備もなされている。 ・平成11年に新築移転してから既に18年が経ち様々なところで老朽化が目立つが、既に計画的に改修工事が進み、完成間近であるとの事。他の場所を見てもきれいに整理整頓され、清掃も行き届いており清潔感がある。 ・校舎内も、整理整頓されている。	施設設備に関しては、日々の清掃業者や学生による清掃・整理整頓、計画的な修繕・改修によって、快適な環境が保たれていると評価された。特に、シミュレーション室の設置については評価が高かった。 実習施設においても、必要に応じて整備や適切な管理がされているという意見であった。	施設設備に関しては規則に基づき点検を行い、今後も必要に応じて予算化しつつ、整備していく。 また、カリキュラム改正や実習施設、医療・看護を取り巻く環境の変化に応じて、実習用品の整備を行っていく。
	学生寮の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0			
	美化対策	・校舎及び庭等の美化対策に努めているか。	3.0	・寮生活についてのアンケートを行い、修繕・清掃、また、調理器具等の新規購入など快適な寮生活が送れるよう配慮されている。		
実習施設	実習用品の整備	・実習用品を定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0	・実習用品に於いては時代と共に様式が変わり、備品の整備には苦慮されているかと察するが、不要になったものは処理されており適正に管理されていた。		
	学生控室等の整備	・備品等を定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0	・シミュレータールームが解放され、学生が学習しやすい環境を整えている。		

VII. 組織・管理・運営

組織体制の整備	・組織体制と意思決定システムを明確に規定しているか。	3.0	・緊急時対応マニュアルの明確化、緊急時パーソナルメモなど、対策が明確である。 ・自己点検・自己評価の改善点から「危機管理マニュアル」の整備として、地震時の対応マニュアルの作成	組織・管理・運営等に関しては全項目の評価で「3.0」の評価を得た。 昨年度の学校関係者評価において指摘の	各項目とも高い評価を得ており、現在の取組を継続しながら、評価意見を参考にして、必要に応じた見直しを行い、適正な管理運営に取り組んでいく。
---------	----------------------------	-----	--	---	--

教員人事の適正配置		・教職員の任用の考え方を明示しているか。	3.0	をし、学生へのオリエンテーションに組み入れている。 ・危機管理マニュアルも策定された。	あった「危機管理マニュアル」の策定について、平成28年度から震災編を順次策定していることの評価を得た。	教員の確保については、引き続き益田市医師会と連携し、必要に応じて島根県の支援も受けながら、定員確保、教員の育成に取り組んでいく。			
職員の業務分掌		・職員の業務分掌を明示し、周知しているか。	3.0				・現在も、丁寧な学生指導が行われているが、指導をさらに充実していくためにも、教員の確保については継続して取り組んでほしい。	教員確保については、平成28年度に欠員が解消したこと評価され、前年度「2.8」の評価から「3.0」の評価を得た。	危機管理マニュアルについて、平成27年度の評価で指摘のあったハラスメントについては平成29年度に策定するとともに、そのほかの項目についても、順次策定に取り組んでいく。
講師・実習指導者の確保		・講師・実習指導者の選定の考え方を明示しているか。	3.0				・資格のこともあり確保は大変であると思うが、計画的に取り組んでほしい。	予算については、島根県の業務委託料により運営しており、厳しい県財政の中、必要経費の確保が行われている。	予算については、厳しい県財政状況ではあるが、引き続き、看護教育に必要な予算について確保に努めていく。
予算・経理	予算要求	・要求項目を精査し、要求金額を明らかにするなど、合理的な予算要求に努めているか。	3.0				・年報の中には、記載されていない項目もあるが、学院の運営評価結果を見ると、ほとんどが「やや良い」との評価であり、適切に対応されていると推察する。	看護師国家試験について、平成28年度(36期生)が合格率100%を達成し、学生本人の努力は勿論であるが、これまでの教員の地道な国家試験対策の取組についても評価を受けた。	予算については、厳しい県財政状況ではあるが、引き続き、看護教育に必要な予算について確保に努めていく。
	庶務・経理	・法令・規則等を遵守し、適切な予算執行に努めているか。	3.0						
		・迅速な事務処理に努めているか。	3.0						
事故の対策と安全管理		・事故の対策と安全管理の考え方を明示し、周知しているか。	3.0				・各委員会の運営なども適切に管理されていることがわかる。		高い県内就職率の保持に努めるとともに、学生が希望する進路が実現できるよう、質の高い人材を育成する取組を継続して実践していく。
会議、委員会の運営		・会議・委員会の規定に基づき、運営しているか。	3.0						
学籍の管理		・学籍の管理の方法を規定し、適正に管理しているか。	3.0				・看護師国家試験全員合格に向けての努力もうかがえた。		
国家試験合格状況		・国家試験合格状況を分析し、整理しているか。	3.0				・国家試験合格率は依然高く、常に全国平均を上回っている。先生方の丁寧できめ細やかなご指導があるからこそだと思います。		
卒業生の進路		・卒業生の進路状況を分析し、整理しているか。	3.0	・卒業生の進路状況、さらには追跡はどこまで行っているのでしょうか。1000人越えとなった卒業生の活躍に興味があるところです。 ・ホームカミングデイについても、良い企画である。教職員の皆さんが一丸となって迎えておられる様子が伺えた。					
VIII. 研修・研究									
教職員の研修等活動		・教職員の資質向上のための研修等への積極的参加について支援しているか。	3.0	・教職員の皆さんの積極的な参加、学院の支援体制の充実もあつての成果だと感じる。 ・教員自身の自己研鑽、研修等計画的に実施されている。 ・各種研修会に参加されている。伝達講習も行われ、教員全体のスキルアップも図られている。 ・キャリアラダーを作成されたことにより、個々人の振り返りができ、専門性等意識が高まっていくと思われる。	平均評定は「3.0」であり、教職員の資質向上のために組織として、適切に計画・実施できているという評価を受けた。 キャリアラダーの整備についても評価が得られており、今後の教職員の専門性の向上が期待されている。	引き続き、教職員の資質向上を目指し、学院の支援体制を継続させていく。 キャリアラダーを活用し、教職員自身が各々目指すべきレベルを意識し、適宜自己評価を行いながら自己研鑽に努めていく。			
IX. 社会との連携									

地域社会との連携と交流	・地域住民や施設との連携や交流について積極的に支援しているか。	3.0 ・地元ケーブルテレビとの提携は素晴らしい。学生たちが生き生きと取り組んでいる様子を見ることができて良かった。 ・小学生対象の親子スクールも地域との連携・交流の機会になっている。 ・地域の小学生への出前事業活動や地域の生徒の学院見学受け入れ活動、ひとまるビジョンとの協働作成番組など積極的に活動をされている。 ・ローカルテレビとの共同企画やボランティアへの参加等忙しい学校活動に加え、活動範囲が活発かつ多様である。地域に根ざした学校、地域と共にある学校と言う印象が強い。	学校の教育資源や施設を活用したこれまでの取組に加え、ひとまるビジョンとの番組作成や親子スクールなどの新しい取組や、地域のニーズに応じた学生の積極的なボランティア活動について高い評価を受けた。	第二次中長期計画に向けての推進課題4「島根県立石見高等看護学院の管理運営」の6)②地域貢献策の検討と併せ、助言を加味しながら引き続き取り組んでいく。 実習施設との連携・交流についても引き続き取り組んでいく。
実習施設との連携と交流	・積極的に実習施設との連携や交流を行っているか。	3.0 ・地域の様々な行事・関連イベントに参加することで、地域を知ることができるとともに地域貢献ができる。 ・地域の方々・関係者と一緒に活動することで、人間性や社会性を高めることが期待される。 ・市町においても、地域枠推薦の学生との意見交換等つながりを大事にしながら支援を行っている。		
X. 学校評価				
自己点検・自己評価体制	・自己点検・自己評価体制について規定しているか。	3.0 ・自己点検・自己評価し、改善をしている。 ・昨年の課題が適切に丁寧分析され反映されていると感じた。 ・要綱に基づき、自己評価及び学生・保護者等関係者による評価が実施されている。	当学院の自己点検・自己評価の取組について、自己評価に終わらず他者評価を得て、自己評価の透明性を高め、改善に向け取り組んでいることに高い評価を得た。また、危機管理マニュアルの作成に着手し、改善に向けて取り組んでいることについても高い評価を受けた。	自己点検・自己評価、学校関係者評価の実施に引き続き取り組んでいく。自己点検・自己評価の結果及び学校関係者評価委員の意見を反映し、特色ある学院づくりに繋げ、充実した学校運営を行っている。
	・自己点検・自己評価し改善しているか。	3.0 ・実施された結果についてまとめ、危機管理マニュアルの作成等改善できるところについては改善がなされている。	昨年引き続き、2回目の学校関係者評価委員会を開催し、実施内容について高い評価を受けるとともに、あらたな示唆を得た。	